



施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	産業政策課	職	課長	氏名	石山 裕二
評価者	組織		職		氏名	

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	地場産業の競争力強化	1 GDP創出	億円	2,600 (H27)	- (H26)	(H27)	
		2 新規雇用創出	人	22,500 (H27)	- (H26)	(H27)	
		3 ニッチトップ企業の育成数(累計)	社	40 (H27)	36 (H26)	(H27)	
施策2	次世代産業の創造	1 GDP創出	億円	2,600 (H27)	- (H26)	(H27)	
		2 新規雇用創出	人	22,500 (H27)	- (H26)	(H27)	
施策3	産業人材の総合的育成・確保	1 GDP創出	億円	2,600 (H27)	- (H26)	(H27)	
		2 新規雇用創出	人	22,500 (H27)	- (H26)	(H27)	

施策	課題	施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題				課題に対する主な取り組み				評価		
		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値 (年度)	現状値 (年度)	事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
課題3	国際展開の拡大	1 ニッチトップ企業海外展開支援数(累計)	社	6 (H28)	2 (H26)	(H27)	1 ニッチトップ企業海外展開支援事業費	県内企業等	9,500			
		1 東南アジア展開企業数	社	130 (H27)	125 (H26)	(H27)	2 東南アジア販路開拓推進事業費	県内企業等	7,400			
		1 中国展開企業数	社	170 (H27)	161 (H26)	(H27)	3 中国販路開拓推進事業費	県内企業等	2,600			
施策2	次世代産業の創造	1 いしかわ次世代産業創造ファンド事業採択件数(累計)	件	112 (H27)	112 (H26)	(H27)	1 いしかわ次世代産業創造ファンド事業資金貸付金	県内企業等	10,000,000			
		1 シーズ・ニーズ発表会等の参加機関数(東海・北陸合計)	社・機関	190 (H27)	190 (H26)	(H27)	2 東海・北陸連携コンソリットハイウェイ構想推進事業費補助金	県内企業等	6,000			
		2 雇用人材数	人	11 (H27)	1 (H26)	(H27)	3 炭素繊維複合材料研究開発けん引人材確保事業費補助金	県内企業等	48,800			
施策3	産業人材の総合的育成・確保	2 海外展開延べ企業数	社	394 (H28)	362 (H26)	(H27)	1 若手社員海外チャレンジ研修支援事業費補助金	県内企業等	8,000			
		2 県内中小企業(基幹4業種)の人材確保人数	人	30 (H27)	35 (H26)	(H27)	2 企業成長けん引中核人材確保事業費	県内企業等	311,500			
		2 提案力育成塾における具体の提案件数	件	10 (H27)	13 (H26)	(H27)	3 女性のモノづくり提案力育成事業費補助金	県内企業等	2,300			
		2 ブラチナOB人材の就業斡旋件数	件	20 (H27)	5 (H26)	(H27)	4 ブラチナOB人材活用促進事業費	県内企業等	4,000			
		2 インターンシップ参加者数	人	300 (H27)	- (H26)	(H27)	5 産業人材インターンシップ促進事業費	県内企業等	7,220			

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 受注開拓事業費補助金	<b>事業開始年度</b>	S41	<b>事業終了予定年度</b>	
	<b>根拠法令・計画等</b>	下請中小企業振興法		

<b>作成者</b>	<b>組織名</b>	商工労働部産業政策課			
	<b>職・氏名</b>	主任主事 竹中 康将			
	<b>電話番号</b>	076 - 225 - 1507 内線 4444			

**事業の背景・目的**  
 中小企業の経営安定、発展のためには、取引先の多角化や成長分野製品・高付加価値製品等の良質受注を主眼とした受注開拓の実施が求められている。このような受注開拓を推進するため、取引あわせん事業、取引適正化事業等を行うもの。

**事業の概要**  
 ・実施主体(交付先)(公財)石川県産業創出支援機構

**事業内容**

(1) 業務管理費

中部ブロック下請連絡問題会議開催費  
 企業の加工技術等の情報発信登録等

(2) 下請取引情報収集提供事業

発注企業名簿の作成、広報誌の発行等

(3) 広域取引推進事業

共同受注の促進のため、広域取引専門調査員の設置(3名)

(4) 受注開拓活動費

- 県外発注企業を対象とした受注開拓活動を進め、県内下請企業の多角化・高付加価値化を図る。
- ・ビジネス創造フェアいしかわ(旧:中小企業技術展)開催事業(5月)  
 県内中小企業の製品、部品を展示することにより、優れた技術を広く紹介し、受注機会の拡大を図る。
- ・企業交流懇談会開催事業(5月)  
 県外発注企業と県内下請企業との懇談会を県内で開催し、取引の円滑化を図るとともに、安定受注の確保を図る。
- ・県外受注開拓懇談会開催事業(9月)  
 発注企業が集中する地区でトップセールス商談会を開催することにより、新規受注先の確保と受注の拡大を強力に推進する。
- ・下請企業受注基盤整備事業(通年)  
 下請企業への受注確保の促進のため、関係業界との連携の下、発注企業との連絡・仲介等情報収集を積極的に行うとともに、取引に係る諸問題について討議・情報提供することにより、受注体制の整備を図る。

**これまでの見直し状況**

- H18年度予算 広域取引専門員を削減 4名→3名
- H18年度予算 国庫補助の廃止

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	地場産業の競争力強化				<b>評価</b>	
<b>課題</b>	新製品開発による新規需要の創出					
	<b>指標</b>	発注開拓件数			<b>単位</b>	件
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	650	719	673	664	641	

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	28,768	21,014	21,014	21,014	21,014
	決算	28,768	21,014	21,014	21,014	
一般	予算	28,768	21,014	21,014	21,014	21,014
	決算	28,768	21,014	21,014	21,014	
事業費累計		202,733	223,747	244,761	265,775	286,789

評価	
<b>項目</b>	<b>評価</b>
	<b>左記の評価の理由</b>
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り進むのか)	

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	技術提案型展示商談会開催事業費	事業開始年度	H21	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作成者	組織名	商工労働部産業政策課			
	職・氏名	主事 田原 雅比古			
	電話番号	076 - 225 - 1507 内線 4446			

■ 事業の背景・目的  
 平成20年度に販路開拓支援の一環として実施したトヨタ自動車との技術提案型展示商談会は、県内企業が有する新技術・新工法の優れた点を、メーカーに対して簡潔に売り込むことのできる、双方にとって価値ある非常に優れた展示商談会となった。この技術提案型の展示商談会を一過性のものにするのではなく、取り組んだノウハウを活かして、他メーカーへもアピールし、県内企業の取引拡大や信用力向上を支援していく必要があるとして、平成21年度から大手メーカーと技術提案型展示商談会を継続的に実施する。

また、さらなる商談機会を創設するため、大手メーカーの技術者や開発等の担当者を本県に招いて、県内企業の工場視察なども含め、より熟度の高い商談を実施する形式の招聘型の商談会も合わせて実施する。

■ 事業の内訳

1. 展示会開催経費

(1) 対象メーカー 本県企業の技術・部品等が採用可能な製品を有するメーカー	8,290千円
(2) 開催回数 大規模1回予定、小規模3回程度予定、メーカー招聘型8回予定 (商談会形式のもの)	
(3) 出展企業 鍛造、鋳造、機械加工、試作、治具、産業資材繊維、ITなどメーカーが興味を持つ技術保有会社	
大規模型(20~30社程度×1回)、小規模型(10~20社程度×3回)、メーカー招聘型(5社程度×8回)	

2. 技術提案コーディネータ 2,950千円  
 県外大手メーカーOBによるフォローアップ、アドバイスの実施  
 大手メーカーのニーズの解析、対応できる県内企業の目利き、マッチング支援  
 現在のコーディネータ 元タイ日野自動車社長、日野自動車常務取締役、ジェイバス社長 吉村太朗氏

3. 事務費(メーカーとの折衝旅費) 760千円

施策・課題の状況						
施策	地場産業の競争力強化	評価				
課題	新製品開発による新規需要の創出					
成果指標	大手メーカーへ技術提案する県内企業数	単位 社				
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	130	60	70	58	123	
事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	12,000	12,000	12,000	12,000	18,000
	決算	6,000	9,500	9,890	12,000	
一般	予算	12,000	12,000	12,000	12,000	18,000
	決算	6,000	9,500	9,890	12,000	
財源	事業費累計	13,840	23,340	33,230	45,230	63,230
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県間与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> メイドイン石川アパレル連携事業費補助金	<b>事業開始年度</b>	H20	<b>事業終了予定年度</b>	
	<b>根拠法令 ・計画等</b>			

<b>作</b>	<b>組織名</b> 商工労働部産業政策課
<b>成</b>	<b>職・氏名</b> 主任主事 濱家 大士
<b>者</b>	<b>電話番号</b> 076 - 225 - 1507 内線 4445

**■ 事業の背景・目的**  
 ○8年目を迎えた本事業が軌道に乗り、アパレル企業とのマッチング及び商品開発が進捗  
 →共同開発アパレル企業12社(サンエーインターナショナル、デサント、フランドル、レナウン、オンワード、三陽商会、ラピーヌ、ワールド、イトキン、アーモンドアイ、ジャパンスコープ、マツオインターナショナル) 県内企業13社(カジグループ、ムツミテキスタイル、丸井織物、小松精練など)  
 →共同開発商品の累計988点、うち成約金額約6億5,300万円(H20年4月～H27年3月まで)、アパレル製品は伊勢丹・小田急ハルク・スポーツデポなどで販売、H21,23年度繊維総合賞を受賞し認知度UP  
 ○アパレル企業側からの提案も踏まえ、H23年度からは県内で懇談会を開催し、本取組を県内外へ発信  
 →H22.10.14アパレル懇談会(@グランドプリンスホテル高輪)の席上、アパレルトップ(廣内理事長ら)から知事に、本県での懇談会開催の提案があり、知事も快諾  
 →H23.11.18第4回アパレル懇談会in石川を開催(@ANAクラウンプラザホテル金沢)  
 →H24.11.27第5回アパレル懇談会in石川を開催(@ANAクラウンプラザホテル金沢)  
 →H25.11.12第6回アパレル懇談会in石川を開催(@ANAクラウンプラザホテル金沢)  
 →H26.11.18第7回アパレル懇談会in石川を開催(@ANAクラウンプラザホテル金沢)

**■ 事業の概要**  
 アパレル企業の代表者・企画責任者を本県に招聘し、共同商品開発製品や本県企業独自開発製品のテキスタイル・縫製技術を紹介する機会を提供し、販路開拓及び共同商品開発の更なる促進を支援するとともに、この取組を県内外へ強力に発信する。  
 また、今年度よりアパレル・産地の協会同士の展示商談会を首都圏で開催し、販路拡大を図る。

○アパレル企業との連携商品開発の支援  
 県内繊維企業がアパレル企業と連携した商品開発を支援(H20～)  
 H23年度より、最終製品を見据えた開発を重視し、生地の開発に併せて最終品サンプルを試作。  
 H24年度より、最終品サンプル製作時に首都圏デザイナーがデザイン面を担当。  
 H25年度より、開発段階から、産地・アパレル・デザイナーによる最終製品を見据えた取組みを実施  
 H26年度より、アパレル・デザイナー・産地企業の3者による連携体制の強化・商品開発・販路拡大を図る

○展示商談会及び懇談会の開催等  
 開催時期 平成27年秋頃(予定)  
 開催場所 県内  
 内 容 ○産地企業工場見学  
 ○コンテストショー・表彰式  
 ○懇親会等  
 ○コンテスト受賞作品の一般展示

事業主体 (株)繊維リソースいしかわ

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	地場産業の競争力強化	<b>評価</b>				
<b>課題</b>	新製品開発による新規需要の創出					
<b>成果指標</b>	成約金額(メイドイン石川アパレル連携事業)	<b>単位</b> 千円				
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	190,000	75,000	118,000	157,000	173,000	
事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
<b>事業費</b>	予算	6,500	6,500	8,000	8,000	7,000
	決算	6,500	6,500	8,000	8,000	7,000
<b>一般</b>	予算	6,500	6,500	8,000	8,000	7,000
<b>財源</b>	決算	6,500	6,500	8,000	8,000	
<b>事業費累計</b>		7,250	13,750	21,750	29,750	36,750
評価						
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>				
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 プレミアム石川ブランド戦略的販路開拓支援事業	事業開始年度 根拠法令 ・計画等	H24	事業終了予定年度

作 組 織	商工労働部産業政策課
成 職 ・氏名	専門員 徳田 澄代
者 電 話 番 号	076 - 225 - 1512 内線 4419

**●事業の背景・目的**  
 地域間競争・グローバル競争の激化や円高進行など、県内モノづくり企業を取り巻く環境が厳しさを増す中、県内企業においては、自社製品を「単純に売る」のではなく、「差別化された製品価値を戦略的に売り込む」ことが重要となっている。  
 そこで県内中小企業が開発した製品を石川ブランドとして認定する中から、特に差別化できる可能性が高い製品を「プレミアム石川ブランド」として認定し、戦略的な集中支援を行うことで、価格競争に巻き込まれない差別化された製品づくりや、差別化を図るためのブランド戦略の策定を促進し、県内モノづくり企業のより一層の競争力強化を図る。

**●事業の概要**  
 プレミアム石川ブランドの認定  
 (1)ねらい  
 ユーザーに感動や共感を持ってもらえる差別化された製品とその背景にあるブランド戦略を合わせて認定し、認定製品の販路拡大およびブランド化を促進する。また、認定を目指す取り組みを増やすことにより、県内モノづくり中小企業による差別化された製品の開発やブランド戦略策定意欲の向上を目指す。

(2)事業スキーム

① 募集対象      県内中小企業が開発した新製品  
                   ↓  
                   5分野:① 機械、② 情報、③ 繊維その他産業材、④ 食品、  
                   ⑤ 伝統的工芸品・生活雑貨・インテリア等

② 審査・認定      全国的に著名なブランディングやマーケティングの専門家による  
                   ↓  
                   審査会を実施。将来のブランド成長が期待できると認められた  
                   製品を認定

③ 支援              ・認定製品のブランド化に係る経費補助  
                           ・ブランディングやマーケティングの専門家によるフォローアップ  
                           ・プレミアム石川ブランドシンボルマークの付与

<他>                より魅力的な商品の発掘のため、開発途上の商品に対する相談会を実施

施策・課題の状況							
施策	地場産業の競争力強化					評価	
課題	新製品開発による新規需要の創出					評価	
	指標	プレミアム石川ブランド製品認定件数(累計)				単位	件
	目標値	現状値					
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	27	-	8	16	22		
事業費							
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算		10,000	8,400	6,000	4,800	
	決算		10,000	8,041	6,000		
一般	予算		10,000	8,400	6,000	4,800	
	決算		10,000	8,041	6,000		
事業費累計			10,000	18,041	24,041	28,841	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)							
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り進むのか)							

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	革新的ベンチャー企業支援プログラム事業費補助金	事業開始年度	H19	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組	織	商工労働部産業政策課		
成	職	氏名	主事 伊藤 友里		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1512 内線 4421

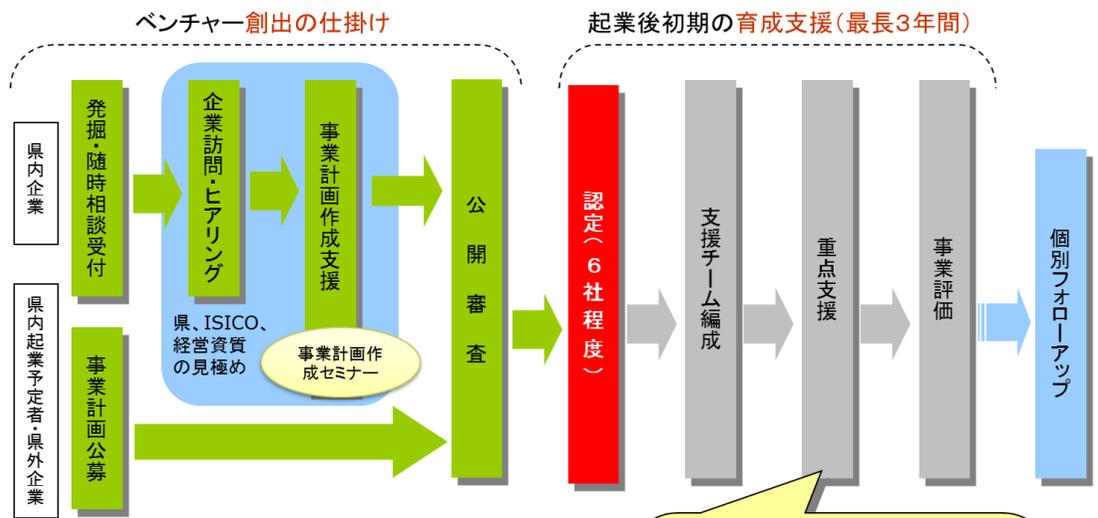
### 事業の背景・目的

石川県産業成長戦略が目指す創業の促進に資するアクションプランとして、革新的な技術やアイデアを持ったベンチャー企業の発掘と育成を進める。

### 支援の対象

ベンチャー企業：革新的な技術の研究・開発による事業展開や、新しい事業アイデア等により地域を支える事業計画を有し、競争優位性、市場性及び収益性を実現できるビジネスを目的として起業する者

### 事業の概要



- ・スタートアップ資金  
総額10,000千円  
最優秀：5,000千円  
優秀：1,000千円×5社
- ・ステップ返済型融資
- ・インキュベーター施設家賃補助(3年間、最優秀)
- ・創業支援アドバイザーを中心とした支援チーム  
(県、ISICO、工業試験場)による集中支援
- ・マッチングの場の創出
- ・起業家交流会
- ・既存制度活用支援

施策・課題の状況					
施策	地場産業の競争力強化		評価		
課題	新製品開発による新規需要の創出				
指標	革新的ベンチャー企業創出育成支援数(累計)			単位	社
目標値	現状値				
平成28年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
41	21	25	29	35	

事業費					
(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費 予算	7,988	7,988	7,988	17,000	17,000
事業費 決算	7,805	7,988	7,988	17,000	17,000
一般 予算	7,988	7,988	7,988	17,000	17,000
財源 決算	7,805	7,988	7,988	17,000	17,000
事業費累計	55,360	63,348	71,336	88,336	105,336

評価	
項目	評価
	左記の評価の理由
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県民との在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ産業化資源活用推進ファンド事業	事業開始年度	H20	事業終了予定年度	H30
	資金貸付金	根拠法令	いしかわ産業化資源活用推進ファンド		
		・計画等			

作成者	組織名	商工労働部産業政策課			
	職・氏名	主任技師 濱崎 貴史			
	電話番号	076 - 225 - 1512 内線 4420			

**事業の背景・目的**  
 平成20年度に、国((独)中小企業基盤整備機構)・県・地元金融機関で基金を造成、平成25年度には県、地元金融機関で基金を積み増し、その運用益により、産業化資源を活用した新たなビジネスの創出や「農商工連携」、「医商工連携」による新産業の創出など、地域間格差の是正、地域経済の活性化に資する事業を支援してきた。  
 平成27年度も引き続き、商品開発から販路開拓に至るまで幅広い段階における支援を継続する。

- 事業の概要**
- 1 基金の運用(運用益:296百万円/年)  
 300億円の基金を造成(平成25年度に100億円追加)  
 政府保証債と県債で運用
  - 2 運用益活用事業(事業費:296百万円/年)
    - (1) 産業化資源を活用した新たなビジネスの創出
      - ① 中小企業による新商品・新サービスの開発・事業化に対する支援
      - ② 産地・地域が一体となって取り組む販路開拓に対する支援
      - ③ 外部の専門家を招聘した研究会・勉強会に対する支援
      - ④ 相談・指導、事業計画の策定支援、フォローアップなどハンズオン支援
      - ⑤ 首都圏等への商品PR・販路開拓、ニーズの収集
      - ⑥ 海外展開の前段階で実施する現地のニーズ把握等への支援(H26新規)
    - (2) 農商工連携産業の創出
      - ① 農商工連携促進協議会の開催
      - ② 新しい食品加工ビジネスモデル構築支援事業
      - ③ 農業参入ビジネスモデル構築支援事業
    - (3) 医商工連携産業の創出
      - ① 医商工連携促進協議会の開催
      - ② 新商品開発・健康サービス創出支援事業
  - 3 貸付先 (公財)石川県産業創出支援機構

**これまでの見直し状況**

- 中小企業による新商品・新サービスの開発・事業化に対する支援→従業員5人以下の小規模企業枠の追加(H21～)
- 新しい食品加工ビジネスモデル構築支援事業に一次加工施設等整備支援事業を追加(H21～)
- 農業参入調査研究事業を見直し、ビジネスモデル構築事業に拡充(H22～)
- 中小企業による新商品・新サービスの開発・事業化に対する支援→海外展開支援枠の追加(H23～)
- 商品のデザイン等改良の支援メニュー、商品開発のための事前調査の支援メニューの追加(H25～)
- 県内金融機関の協力により100億円の追加基金造成を行い、支援体制を充実(H25～)

施策・課題の状況						
施策	地場産業の競争力強化	評価				
課題	新製品開発による新規需要の創出					
	指標	いしかわ産業化資源活用推進ファンド事業採択件数(累計)		単位	件	
	目標値	現状値				
	平成30年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	1,000	302	367	461	563	

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	1,900,000	1,900,000	6,900,000	6,900,000	6,900,000
	決算	1,900,000	1,900,000	6,900,000	6,900,000	
一般財源	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	
事業費累計		5,700,000	7,600,000	14,500,000	21,400,000	28,300,000

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

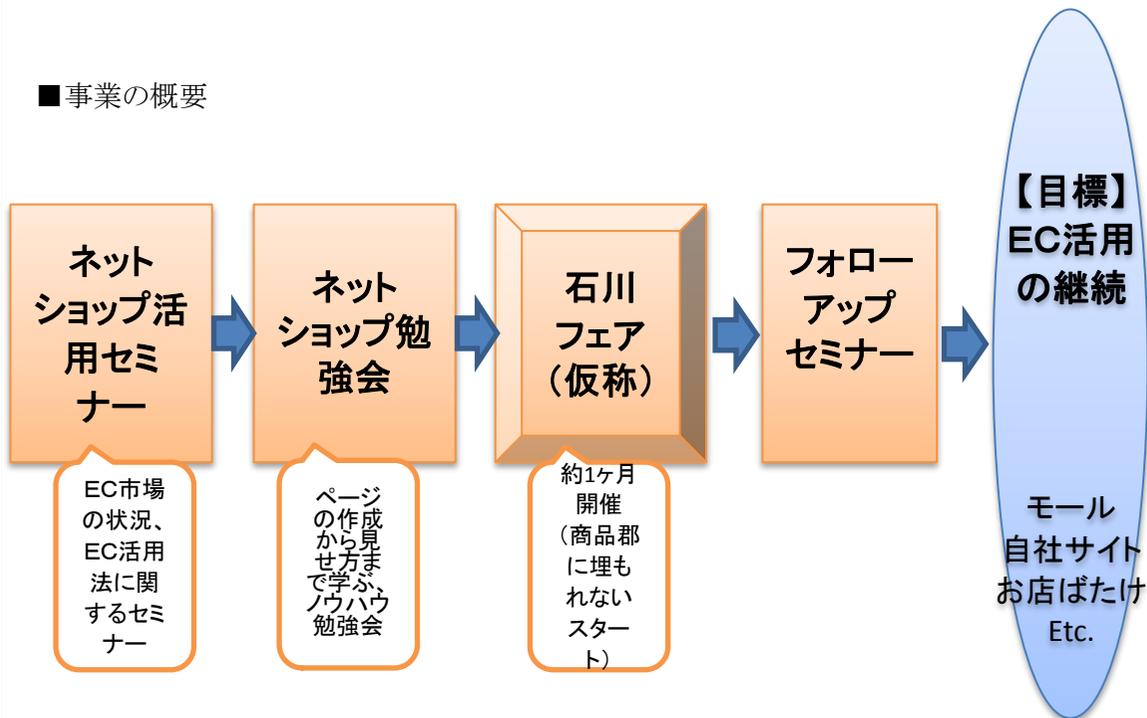
# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	小規模企業インターネット活用ビジネス参入促進事業費補助金	事業開始年度	H27	事業終了予定年度		作組織	商工労働部産業政策課
		根拠法令・計画等		作成者	主事 伊藤 友里	電話番号	076 - 225 - 1512 内線 4421

### ■ 事業の背景・目的

国内市場が停滞・縮小する中、インターネットなどを活用したEC(電子商取引)市場は高い成長を見せている。EC市場は企業規模や立地条件を問わず、小規模事業者にとっても参入しやすいことから、参入に向けた事前セミナーから実践の場、フォローアップまでをパッケージ支援し、県内小規模企業の成長を後押しする。

### ■ 事業の概要



施策・課題の状況					
施策	地場産業の競争力強化	評価			
課題	新商品開発による新規需要の創出				
指標	小規模企業インターネットビジネス参入数(累計)	単位	社		
目標値	現状値				
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
50	-	-	-	-	-

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算					4,000
	決算					
一般財源	予算					4,000
	決算					
事業費累計		0	0	0		4,000

評価		左記の評価の理由
項目	評価	
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県間互の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	石川・福井繊維企業連携新素材開発等支援事業費補助金	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		計画等			

作成者	組 織	商工労働部産業政策課			
	職・氏名	主任主事 濱家 大士			
	電話番号	076 - 225 - 1507 内線 4445			

**■ 事業の背景・目的**  
 国内最大の合繊産地である石川産地において、(1)産地企業自らが企画提案する委託加工形態や自主製品開発の動き(2)一社単独でなく連携によるモノづくりへの機運が高まり、県においても、業界と連携し、このような動きを積極的に後押ししてきた。こうした中、県境をまたいで石川と福井の企業が連携し、素材開発や販路開拓に取り組む動きが見られる。  
 しかしながら、これまでは県域を越えて連携する企業が各県支援メニューを活用する際、県ごとに対象が異なるなど、制度の違いによって機動性、利便性の面で課題があった。そこで、固有の技術・ノウハウを有する産地企業が県域を越えた連携の下で行う新素材開発・販路開拓を石川・福井の行政・支援機関・公設試が一体となって支援することにより、産地の自立化を加速させる。

**■ 事業の概要**  
 県域を越えた繊維企業連携体による新素材開発・販路開拓費用  
 < 補助内容 >  
 支援対象: 石川・福井の県域を越えた繊維企業連携体  
 支援件数: 3件程度  
 補助限度額: 10,000千円(下限1,000千円、各県5,000千円ずつ)  
 補助率: 2/3  
 補助対象経費: 試作開発費・販路開拓費

**■ 事業主体**  
 (株)繊維リソースいしかわ  
 (福井県は公益財団法人ふくい産業支援センター)

施策・課題の状況						
施策	地場産業の競争力強化					評価
課題	新商品開発による新規需要の創出					
	指標	開発点数			単位	点
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	75	-	-	-	-	-
事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算					16,000
	決算					
一般財源	予算					16,000
	決算					
事業費累計		0	0	0	0	16,000
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県間互の在り方等を踏まえ、今後どのように取り進むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 石川のこだわり商品ビジネスマッチング事業	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作成者	組織	商工労働部産業政策課
	職・氏名	専門員 徳田 澄代
	電話番号	076 - 225 - 1512 内線 4419

### ■事業の背景・目的

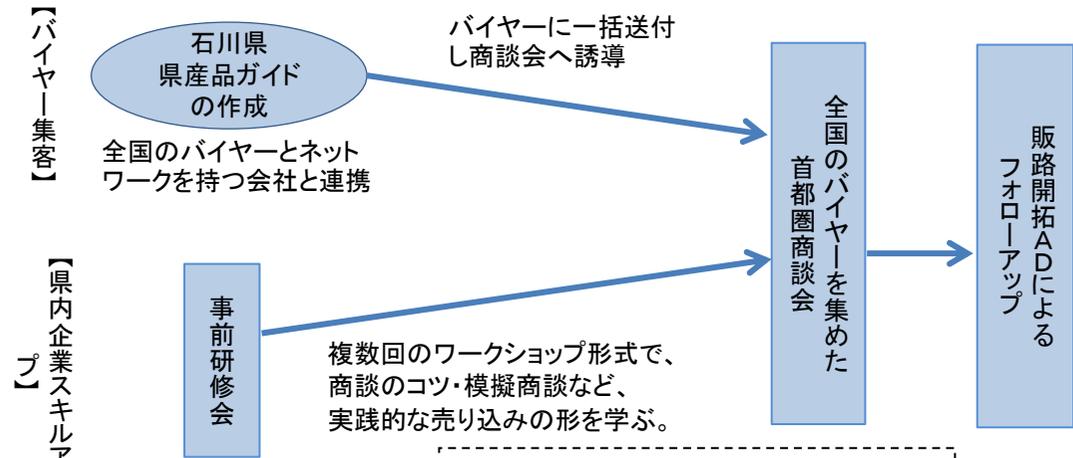
これまで、県内および首都圏で開催してきた「こだわり商品フェア」においては、消費者向け商品PRとバイヤーとの商談を実施しており、参加した企業からは好評で一定の成果を得ている。

そんな中、ノウハウや人材に限界があり独自の販路開拓が難しい県内中小企業からは、より多くのバイヤーと出会う機会を提供して欲しいとの声が多く寄せられている。

そこで、東京を中心とするバイヤーとネットワークを持つ会社と連携し、全国のバイヤーを一堂に集めた商談会を首都圏で開催し、県内企業の販路拡大を図る。

### ■事業の概要

【対象業種】食品／生活雑貨等の一般消費財。



＜商談会の概要＞

全国からバイヤーを呼び、都内のホテルまたは展示会場で開催。商談の場以外での商品PRの機会を提供するため、展示PRコーナーも設置。  
 想定規模・・・バイヤー30社程度  
 県内企業30社程度

施策・課題の状況						
施策	地場産業の競争力強化				評価	
課題	新商品開発による新規需要の創出					
	指標	商談の件数			単位	件
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	290	-	-	-	-	-

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算					9,000
	決算					
一般財源	予算					9,000
	決算					
事業費累計		0	0	0		9,000

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県間互の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 国内外販路開拓・展示会出展支援事業

事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
根拠法令 ・計画等			

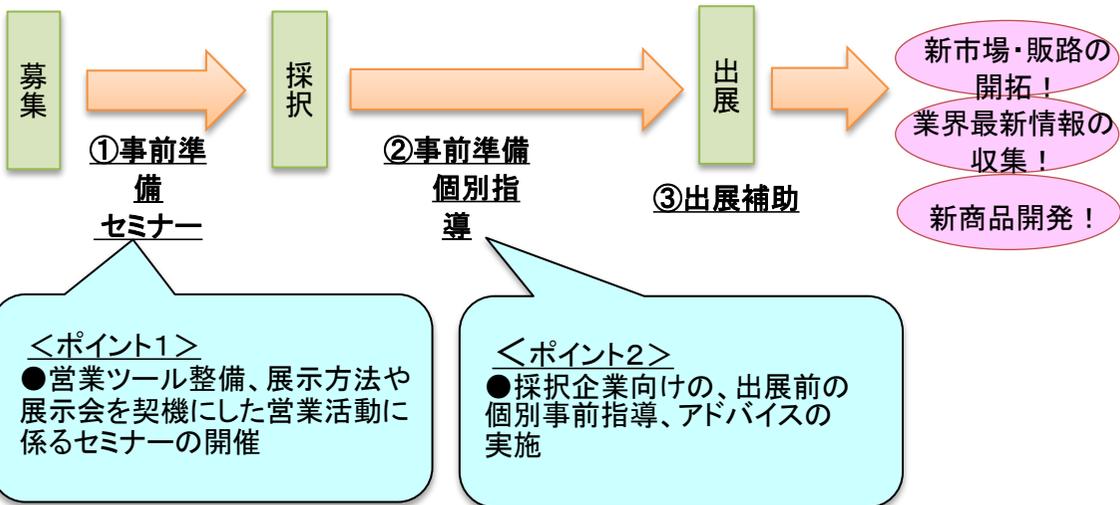
作	組	織	商工労働部産業政策課			
成	職	氏名	専門員 徳田 澄代			
者	電話番号	076 - 225 - 1512 内線 4419				

### ■事業の背景・目的

新たな市場・顧客を開拓するためには、バイヤー(取引先)が一同に会する展示会への出展が有効であるが、出展ノウハウのない中小企業は有効な事前準備ができないまま出展し、機会をロスしていることが多い。また、資金力のない県内中小企業からは、展示会出展に対する行政の支援を求める声は強い。そこで、事前準備セミナーから、国内外で開催される展示会等への出展に対する支援を行い、県内中小企業の新たな需要の開拓を図る。

### ■事業の概要

- 対象 国内外で開催される展示会等への出展事業(ただし、県内の展示会は除く)
- 対象者 県内中小企業、個人事業主
- 補助金額 国内 300千円  
海外 800千円
- 補助率 1/2
- 対象経費 小間料、小間装飾費、展示品輸送費、印刷物作成費、  
(海外のみ)展示会での通訳費



施策・課題の状況					
施策	地場産業の競争力強化				評価
課題	新商品開発による新規需要の創出				
指標	商談の件数			単位	件
目標値	現状値				
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
900	-	-	-	-	-

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算				6,330	28,000
	決算				4,756	
一般財源	予算				6,330	28,000
	決算				4,756	
事業費累計			0	0	4,756	32,756

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県間互の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	消費者と共に創る商品開発モデル創出支援事業	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作成者	組織名	商工労働部産業政策課			
	職・氏名	主任技師 濱崎 貴史			
	電話番号	076	-	225	-
				1512	内線 4420

**■事業の背景・目的**

消費者の意見を基に商品開発を行う「共創」と呼ばれる手法が、消費者ニーズを反映した商品開発の手法として注目されていることから、この手法による商品開発のモデル的事例を支援することにより、共創による商品開発を県内に波及させるための足がかりとし、県内企業の売り上げ増を通じた経済活性化に資することを目的とする。

**■事業の概要**

消費者からのアイデア募集、アイデア集約、商品コンセプトの策定とともに、試作品の製作および一連の手法を幅広く広報する「共創による商品開発プロジェクトチーム」に対する支援

**【支援内容】**

- 共創による新商品の試作品開発・市場投入に対する支援(補助率:1/2、限度額:2,000千円)
  - 試作開発費(旅費、原材料費、備品費、借損料、製造・改良・加工料、デザイン料等)
  - 市場投入費(旅費、会場借料、会場整備費、印刷製本費、資料購入費、調査研究費等)
- 共創による商品企画、新商品の発表に係る支援(補助率:定額、限度額:1,000千円)
  - 商品企画費(謝金、旅費、会場借料、会場整備費、印刷製本費等)
  - 商品発表費(会場借料、会場整備費、印刷製本費、通信運搬費、委託費)

施策・課題の状況						
施策	地場産業の競争力強化				評価	
課題	新商品開発による新規需要の創出					
指標	消費者との共創による商品開発事例			単位	件	
目標値	現状値					
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
4	-	-	-	-	-	
事業費						
(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算				6,000	
	決算					
一般	予算				6,000	
財源	決算					
事業費累計		0	0	0	6,000	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県間互の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 石川の食・食文化総合発信事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度		作成者	組織名 商工労働部産業政策課 職・氏名 専門員 紙谷 敬之 電話番号 076 - 225 - 1509 内線 4428
	根拠法令 ・計画等					

**背景・目的**

(1)これまでの県の海外食文化発信の取り組み  
 これまで県では、世界のトレンド発信拠点NYでの食文化提案会の開催や、H24に「食文化大使」に任命した世界的に著名な米国人シェフの影響力を活かした米国バイヤー招へい商談会など、食文化発信の海外展開に取り組んできた。  
 H26には、和食人気が高まるシンガポールで、トップセールスによる食文化提案会を実施するなど、経済成長著しい東南アジアにおいても石川の食材や地酒、器や料理をトータルでPRしてきた。

(2)内外の環境変化  
 H25年12月に和食がユネスコ無形文化遺産に登録され、日本の食文化に対する海外からの注目は高まっている。また、来年開催されるミラノ国際博覧会への本県の出展は、これまでの取り組みの蓄積を活かして食文化の魅力を欧米やアジアなど世界に発信する絶好の機会となる。

(3)取り組むべき課題  
 そこで、食文化大使の国際的な影響力と、県NY事務所が独自に構築した現地ネットワーク(ジェトロ、日系商社等)による事前相談・事後フォローアップ体制を活用して、米国市場への本格参入に向けた県産品の海外販路開拓を促進する。  
 シンガポールでは、H26のトップセールスによる食文化発信の結果、世界的な食の祭典「ワールドグルメサミット」で石川の参加が決定したことから、世界の食・料理関係者が注目する本サミットで石川の食をPRし、県産品の販路拡大を促進する。

**事業の概要**

(1)欧米食文化発信事業  
 ・米系高級スーパーのバイヤー等とのビジネスマッチングを開催し、現地市場への県産品の本格参入を促進する。  
 ・欧米で影響力のある現地オピニオンリーダーに対して、食文化大使が自ら、石川の食材や食文化の魅力をPRし、県産品のブランド化を推進する。

(2)東南アジア食文化発信事業  
 ・H27年4月にシンガポールで開催される食の祭典「ワールドグルメサミット2015」にて、世界中から集まる著名シェフやメディア等に対し、県産食材や地酒等をPRして販路開拓を推進する。

施策・課題の状況						
施策	地場産業の競争力強化					評価
課題	地域の強みの活用					
	指標	海外展開延企業数(食品産業・伝統産業)		単位	社	
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	72	36	43	57	63	
事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算				9,000	13,600
	決算				9,000	
一般財源	予算				9,000	13,600
	決算				9,000	
事業費累計			0	0	9,000	22,600
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関係の在り方等を踏まえ、今後どのように取り進むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

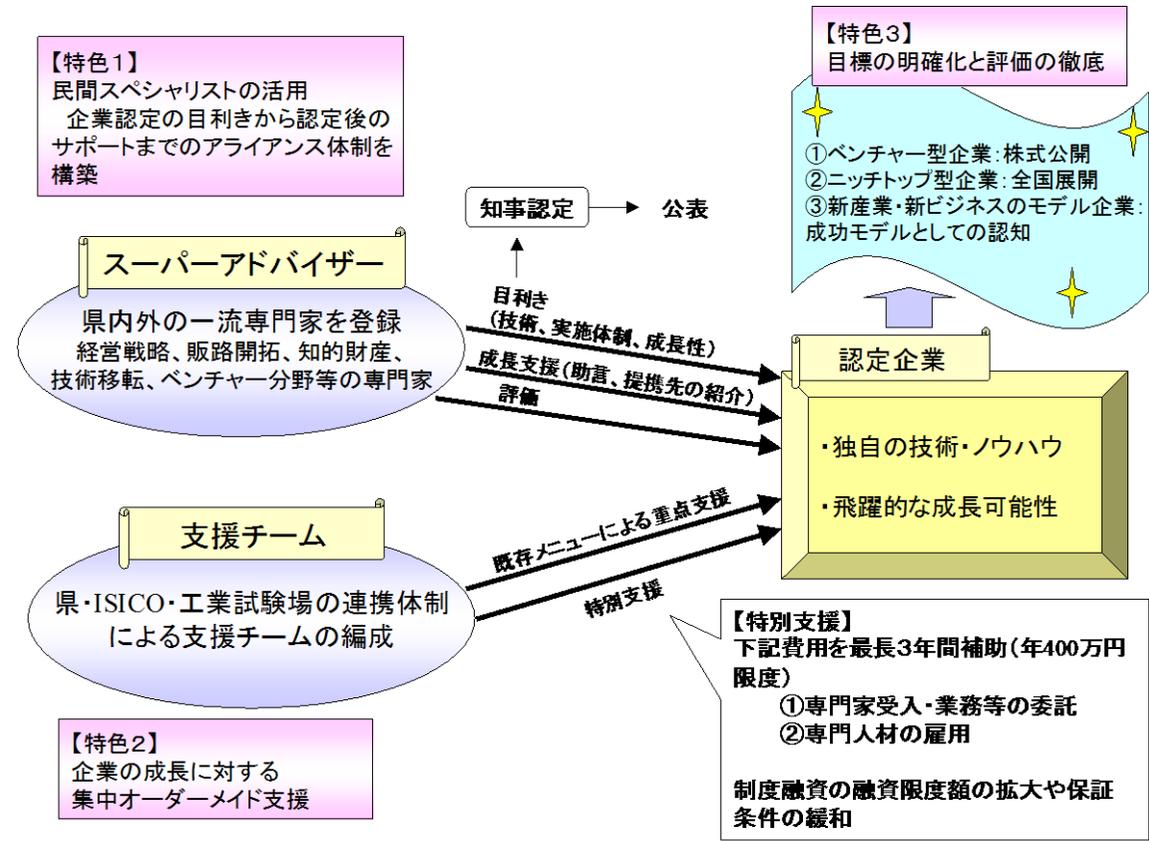
事務事業名	ニッチトップ企業等育成支援事業費	事業開始年度	H16	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作成者	組織名	商工労働部産業政策課	評価	
	職・氏名	主任主事 住田 亮輔		
	電話番号	076-225-1512 (内線4419)		

### ＜事業の目的＞

ニッチトップ企業へ発展するなど、飛躍的に成長するモデル企業を輩出することにより、本県産業全体の対外的競争力を向上させ、地域経済の活性化を図ることを目的として、本県経済を牽引することが期待される企業を育成するため、オーダーメイド型の集中支援を実施する

### ＜ニッチトップ等育成事業の概要＞



施策・課題の状況						
施策	地場産業の競争力強化	評価				
課題	地域の強みの活用					
	指標	ニッチトップ企業育成数(累計)	単位	社		
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	40	27	31	35	36	

事業費						
(単位: 千円)						
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	12,000	10,000	8,000	8,000	5,000
	決算	3,986	1,697	3,382	4,946	
一般	予算	12,000	10,000	8,000	8,000	5,000
	決算	3,986	1,697	3,382	4,946	
財源	事業費累計	33,290	34,987	38,369	43,315	48,315

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	能登スマート・ドライブ・プロジェクト協議会負担金	事業開始年度	H24	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		・計画等			

作	組	織	商工労働部産業政策課		
成	職	・氏名	専門員 本谷 徳康		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1519 内線 4441

事業の背景・目的	<p>能登スマート・ドライブ・プロジェクトの2年間の実証実験を経て、充電スタンドを取り巻く環境は技術的には大きな変化はないものの、設置状況は当協議会が充電スタンドを大きくPRしたこともあり、趣旨に賛同した和倉温泉の加賀屋、美湾荘などの民間企業でも設置するという広がりを見せ、GIAHS世界会議ではトヨタ自動車の小平副社長による講演でも紹介された。</p> <p>また、充電スタンドの利用状況については、平成24年7月7日のスタートから、地域よってばらつきはあるもの下記のように利用状況は順調に推移している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>H24.7.7～H25.7.6までの1年間の実績 PHVレンタカー246件、充電スタンド1,849回、Wi-Fi利用44,878件</p> <p>H25.7.7～H26.7.6までの1年間の実績(カッコ内対前年比) PHVレンタカー405件(+159)、充電スタンド3,027回(+1,178)、Wi-Fi利用50,640件(+5,762)</p> </div> <p>さらに、国による充電スタンド普及の後押しや、のと里山海道SA・PAや寄り道パーキングに充電スタンドを追加設置している状況を踏まえ、本プロジェクトを継続して実施することによりエコドライブを通じ、世界農業遺産である能登の里山里海を広く周知していく。</p>
事業の概要	<p>【 協議会の取り組み (H26) 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 充電スタンドの設置(のと里山海道増設2台、寄り道パーキング神子の里1台)</li> <li>● 能登井付きレンタカーキャンペーンの実施(7月～11月)</li> <li>● 旅雑誌への広告掲載などのPR(るるぶ等)</li> <li>● 各種イベントへの出展など(ツーリズムEXPOジャパン)</li> </ul> <p>【 協議会の取り組み予定 (H27) 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 能登井付きレンタカーキャンペーンの実施(期間拡充:GW～11月)</li> <li>● 旅雑誌への広告掲載などのPR(るるぶ等)</li> <li>● 各種イベントへの出展など(ツーリズムEXPOジャパン)</li> </ul>

施策・課題の状況						
施策	地場産業の競争力強化				評価	
課題	地域の強みの活用					
	指標	PHVレンタカー利用台数			単位	台
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	400	-	246	405	510	
事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算		10,000	8,000	7,000	5,000
	決算		10,000			
一般財源	予算		10,000	8,000	7,000	5,000
	決算		10,000			
事業費累計			10,000	18,000	25,000	30,000
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県間互の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> ニッチトップ企業海外展開支援事業費	<b>事業開始年度</b> H26	<b>事業終了予定年度</b>
	<b>根拠法令・計画等</b>	

<b>作</b>	組	織	商工労働部産業政策課			
<b>成</b>	職	氏名	主任主事 住田 亮輔			
<b>者</b>	電話番号	076 - 225 - 1512 内線 4419				

**事業の背景・目的**

・本県では、海外で高いシェアを獲得しているグローバルニッチトップ企業が6社あり、東京、大阪、愛知の3大都市圏に次いで全国第4位。  
 (県内グローバルニッチトップ企業:津田駒工業、明石合銅、BBS金明、東振精機、小松精練、天池合織)  
 ・また、本県には、国内で高いシェアを獲得しているニッチトップ企業も多数存在。  
 (H17:40社 → H25:73社)  
 ・こうしたニッチトップ企業では、新興国等の海外市場の拡大を背景に、高い技術力を活かした海外需要獲得への関心が高まっているが、海外展開の際の販路開拓や知的財産権取得に関するノウハウや経験が不足。  
 ・そこで、海外展開に意欲的なニッチトップ企業に対し、販路開拓や知的財産権の取得等を県、工試、ISICO等が支援することで、ニッチトップ企業のグローバル展開を促進し、本県産業の優位性を

**事業の概要**

ニッチトップ企業が、国内市場における更なるシェア拡大のみならず、海外市場でのシェア獲得・拡大のための集中支援を実施。

< 支援対象 >

- ニッチな分野で、国内シェアトップを誇るニッチトップ企業であって、以下のいずれかの事項を目指す企業(年間2社程度)
- ・海外市場の獲得を目指す企業
  - ・国内市場でさらなるシェア獲得を目指す企業

< 支援内容 >

- ・専門家派遣、海外展示会出展等の販路開拓、国際特許等の知的財産権取得、製品開発や改良に係る技術開発、グローバル人材の雇用等に係る経費に対する助成(1社当たり300万円、補助率2/3)
- ・産業政策課、ISICO、工業試験場、ジェトロ、中小企業基盤整備機構による支援チームにより、3年間の集中支援を実施
- ・海外シェア獲得や国内シェア拡大に向けた製品開発、改良のための、国プロジェクト等の獲得支援も実施

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	地場産業の競争力強化				<b>評価</b>	
<b>課題</b>	国際展開の拡大					
	指標	ニッチトップ企業海外展開支援数(累計)			単位	社
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	6	-	-	-	2	

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算				6,000	9,500
	決算				4,193	
一般財源	予算				6,000	9,500
	決算				4,193	
事業費累計			0	0	4,193	13,693

評価		
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	東南アジア販路開拓推進事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度		作 組 織	産業政策課
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主事 木村 孔明
						者 電話番号	076 - 225 - 1509 内線 4429

## 1. 事業の背景・目的

成長著しい東南アジア市場の需要を取り込むため、同エリアに対する県内企業の販路開拓ニーズは高い。アセアンは2015年に経済統合を果たし、単一市場として、また生産基地として県内企業から注目されており、石川県産業成長戦略検討委員会及び各部会でも「今後はいかにASEAN等新興国の需要を取り込むか」が課題とされていた。しかし、海外展開に取り組む県内企業からは、「中小企業が個社で海外展示会へ出展することは大変、海外展示会への出展支援は継続的にやるべき」、「中小企業単独では現地企業へのアプローチが困難で、販路開拓がなかなか進まないという現実があり、行政に対して現地企業とのマッチングを希望」といった声が多く、企業・業界は東南アジア市場の販路開拓に対して県の支援を求めている。そこで県内企業の輸出促進及び進出企業の現地販路拡大を図るため、見本市出展・商談会開催に対する支援を行う。

## 2. 事業の概要

- 支援対象  
東南アジアに対する販路開拓ニーズの高い「県食品協会」及び「県鉄工機電協会」
- 開催地  
【シンガポール:食品】  
・食文化提案会で関係を構築した現地のトップシェフやレストラン関係者等を招聘して、県内にて商談会を開催  
・現地の高級レストランにて、期間限定で石川フェアを開催し、県産食品のPRを実施
- 【タイ、インドネシア:機械】  
・タイ、インドネシアの機械見本市への出展支援に加えて、出展ブースに有望な取引先候補企業を呼び込み、マッチングの機会を創出  
・新市場として関心の高いベトナム機械市場の可能性を調査するため、現地見本市への出展を支

## 施策・課題の状況

施策	地場産業の競争力強化	評価	
課題	国際展開の拡大	評価	
指標	東南アジア展開企業数	単位	社
目標値	現状値		
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
平成26年度	平成27年度		
130	-	86	115
			125

## 事業費

	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算				6,000	7,400
	決算				6,000	
一般	予算				6,000	7,400
財源	決算				6,000	
事業費累計		0		0	6,000	13,400

## 評価

項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	中国販路開拓推進事業費	事業開始年度	H16	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組	織	商工労働部産業政策課		
成	職	氏名	主事 松宮 美由紀		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1509 内線 4429

**■事業の背景・目的**

中国経済は1978年の改革開放以降、市場経済を拡大させており、日本を抜いて世界第2位のGDP成長率を誇っているなど、世界経済の中でも目覚ましい経済成長を遂げている。近年では、その著しい成長や13億人という圧倒的な人口から、巨大な消費市場としての魅力を増してきており、その有望な中国市場に対し、販路の開拓・拡大を目指す企業も多い。そこで県内企業の輸出促進及び現地での販路拡大を図るため、中国ビジネスにおける情報提供や県内での商談会開催等に対する支援を行う。

**■事業の概要**

対象: 既に中国において事業を展開している企業および展開を検討している企業

**【食品】** 上海・・・上海の食品専門商社および日本食レストランチェーンのバイヤーとの商談会を県内で開催。その後、可能性のある商材については、商社と連携し、現地販路先に対して同行セールスを実施し、企業の販路開拓を支援する。

香港・・・食品専門商社との商談会を県内で開催。その後、可能性のある商材については、商社と連携し、現地販路開拓先に対して同行セールスを実施し、企業の販路開拓を支援する。

**【機械】**

中国に有力なネットワークを持つマッチング業者と連携して、高い経済成長率を背景に近年増加してきている地場企業との個別マッチングを実施し、県内進出企業の販路開拓を支援する。

**【全業種】**

石川県内企業の中国ビジネスにおける税務・会計・人材などの様々な相談に対して、中国に精通したコンサルティング会社と提携し、情報提供及びアドバイスを行う。

施策・課題の状況						
施策	地場産業の競争力強化	評価				
課題	国際展開の拡大					
	指標	中国展開企業数	単位	社		
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	170	135	159	163	161	

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	9,500	8,000	7,000	3,000	2,600
	決算	9,269	8,850	7,000	3,000	
一般	予算	9,500	8,000	7,000	3,000	2,600
	決算	9,269	8,850	7,000	3,000	
事業費累計		63,446	72,296	79,296	82,296	84,896

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県間互の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

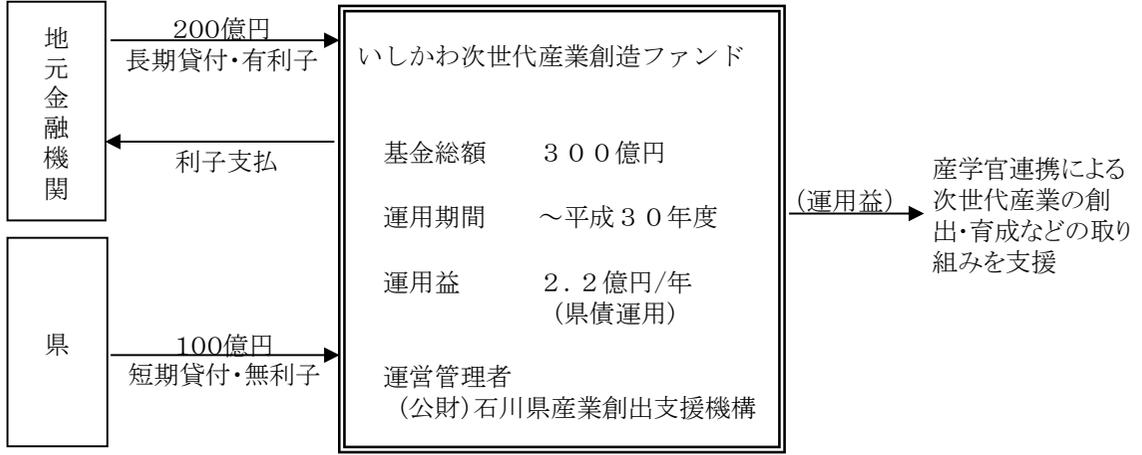
# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b>	いしかわ次世代産業創造ファンド事業資金貸付金	<b>事業開始年度</b>	H22	<b>事業終了予定年度</b>	H30	<b>作成者</b>	<b>組織</b>	商工労働部産業政策課	
		<b>根拠法令・計画等</b>		<b>職・氏名</b>	主事 小倉 優太		<b>電話番号</b>	076 - 225 - 1513 内線 4448	

**事業の背景・目的**  
 県と地元金融機関で基金を造成し、その運用益により、将来の本県経済を支える新たな産業である次世代産業の創出・育成などの産学官連携の取り組みを支援することで、本県経済の成長発展を図る。  
 昨年度に基金を積み増し、試作品の実証試験や販路開拓、生産工程の改善等のメニューを加え、事業化まで切れ目なく支援する。

**事業の概要**

1 ファンドスキーム



- 2 運用益活用事業
- ・次世代産業として有望な分野における新製品・新技術の研究開発に対する助成
  - ・中小企業等が有する技術を次世代産業に応用するための新製品・新技術の研究開発に対する助成
  - ・新製品・新技術の研究開発等において必要となる予備的調査を支援
  - ・地場の農林水産物やその加工品が有する機能性成分等の評価・実証を支援
  - ・既存技術を新分野に展開するための企業と大学研究者との交流を推進
  - ・試作品の実証試験や販路開拓、生産工程の改善等を支援
- 統・東京大学先端科学技術研究センターの研究者と企業が連携して取り組む共同研究を支援

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	次世代産業の創造				<b>評価</b>	
<b>課題</b>	次世代産業の創造					
	<b>指標</b>	いしかわ次世代産業創造ファンド事業採択件数(累計)			<b>単位</b>	件
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	149	38	57	75	112	

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
<b>事業費</b>	予算	3,000,000	3,000,000	3,000,000	10,000,000	10,000,000
	決算	3,000,000	3,000,000	3,000,000	10,000,000	
<b>一般財源</b>	予算					
	決算					
<b>事業費累計</b>		3,000,000	6,000,000	9,000,000	19,000,000	29,000,000

評価		
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b>	東海・北陸連携コンポジットハイウェイ構想推進事業費補助金
--------------	------------------------------

<b>事業開始年度</b>	H26	<b>事業終了予定年度</b>	
<b>根拠法令</b>			
・計画等			

<b>作 組 織</b>	商工労働部産業政策課		
<b>成 職・氏名</b>	専門員 前寺 康剛		
<b>者 電話番号</b>	076	-	225 - 1513 内線 4424

**■ 事業の背景・目的**

炭素繊維複合材料については、本県における川中繊維産業の集積や高い加工技術を有するものづくり企業の集積という優位性を活かし、資金、人材、施設の整備を進めてきたところであり、平成25年度に国の支援を得て、革新複合材料研究開発センター(ICC)が整備され、自動車のみならず、橋梁や建築物などの社会インフラへの適用も視野に入れた炭素繊維をベースとした環境に優しい新素材の開発に取り組んでいる。

この成果を事業化につなげるためには、県内企業が取り組む加工工程(川中)に加え、多様な最終製品(川下)での需要拡大が重要である。

そこで、自動車、航空機などの川下産業が集積する東海地域との連携を図り、川中から川下が大連携した協力体制の構築を目指す。

**■ 事業の概要**

**(1) 東海・北陸交流会の開催**

両地域の研究開発拠点(ICCおよび名古屋大学ナショナルコンポジットセンター(NCC)、岐阜大学複合材料研究センター(GCC))の関係者を中心とする交流会を金沢市内で開催し、県内企業の開発製品や技術シーズを紹介するとともに、東海地域の川下企業による部材開発・加工ニーズを収集し、更なる具体的な開発等につなげる。

時期等：平成27年冬頃(金沢市内)

(本県開催が予定されている国際学会(SAMPE)と時期を合わせて開催)

- 概要等：
- ・シンポジウム(ICC、NCC、GCCからの研究シーズ紹介、川下企業等による講演)
  - ・両地域の企業によるシーズ・ニーズ発表会
  - ・企業等の製造・加工現場訪問

主な参加者： ICC、NCC、GCC所長、東海・北陸の関連企業(開発担当責任者)、経産省、文科省の他SAMPEに参加する国内外の研究者

**(2) 炭素繊維複合材料の建築・土木等への用途拡大に向けた研究会の設置**

想定メンバー： 金沢工大、研究開発に取り組む企業、関係省庁等

活動内容： 実用化に向けた、技術面、法規制等課題の整理、クリアに向けた研究開発、実証評価のロードマップ作成

**【補助金交付先】(公財)石川県産業創出支援機構**

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	次世代産業の創造				<b>評価</b>	
<b>課題</b>	次世代産業の創造					
<b>指標</b>		シーズ・ニーズ発表会等の参加機関数(東海・北陸合計)		<b>単位</b>	社・機関	
<b>目標値</b>		<b>現状値</b>				
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
190	-	-	-	-	190	
事業費						
<b>(単位：千円)</b>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
<b>事業費</b>	予算				2,000	6,000
	決算				572	
<b>一般</b>	予算				2,000	6,000
	決算				572	
<b>事業費累計</b>			0	0	572	6,572
評価						
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>				
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	炭素繊維複合材料研究開発けん引人材確保事業費補助金	事業開始年度	H26	事業終了予定年度	H27
		根拠法令			
		・計画等			

作成者	組 織	商工労働部産業政策課	
	職・氏名	専門員 藤井 要	
	電話番号	076 - 225 - 1513 内線 4423	

**事業の背景・目的**  
 次世代ファンドや各種の国の大型プロジェクトにより、炭素繊維に関する研究者や事業化をコーディネートする人材の集積、研究開発を実施するための施設の整備等は進んできたが、県内の企業において、それらの研究成果を具体的に事業化するための人材が不足している。  
 そのため、これらの企業が、当該分野の専門知識を有する研究者を雇用する際の経費を助成することで、研究成果のスムーズな事業化につなげる。

- 事業の概要(厚生労働省戦略産業雇用創造プロジェクト)**
- 1 事業内容
    - ・県内企業の炭素繊維研究開発人材に関するニーズの開拓や、研究開発人材の情報収集・開拓を行うコーディネーターを雇用(ISICO)
    - ・確保した研究開発人材の雇用経費に対し、企業へ助成(8割)
  - 2 雇用対象企業
    - ・いしかわ炭素繊維クラスター参画企業で、研究開発に取り組む企業
  - 3 雇用人材
    - ・「クラスター参画研究者等とつながりのある企業、大学の研究者」「クラスター参画大学の、大学院(主に博士課程)修了見込者、修了者、非常勤研究員等」

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	次世代産業の創造				評価	
課題	次世代産業の創造					
	指標	雇用人材数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	11	-	-	-	1	

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算				46,400	48,800
	決算				327	
一般財源	予算				880	0
	決算				0	
事業費累計			0	0	327	49,127

評価		左記の評価の理由
項目	評価	
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県民との在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 若手社員海外チャレンジ研修支援事業費補助金	<b>事業開始年度</b>	H26	<b>事業終了予定年度</b>	H27
	<b>根拠法令・計画等</b>			

<b>作</b>	組	織	商工労働部産業政策課		
<b>成</b>	<b>職</b>	<b>氏名</b>	専門員 高橋 雅彦		
<b>者</b>	<b>電話番号</b>	076 - 225 - 1508 内線 4471			

**■ 事業の背景・目的**

県では、海外事業の経験が浅い県内企業や、海外進出を予定する企業の人事担当者等を対象に、自社の海外戦略に対応した人材育成プランの策定ノウハウを学ぶセミナーをこれまで開催してきたところであるが、県内企業では、「将来、海外事業を担う若手を中心に、海外での実体験やグローバル感覚が不足している」ことが課題となっている。一方で、将来、海外事業を担う人材の実践的な育成ノウハウが不足していることから、若手社員を対象とした海外での実地研修を行う県内中小企業はほとんどない状況となっている。こうした課題に対応するため、海外勤務に関するセミナーを開催するほか、他社のモデルとなる若手対象の海外実地研修に取り組む県内中小企業を後押しし、実践的な育成ノウハウを蓄積しフィードバックすることで、次代の海外事業を担う人材の創出につなげる。

**■ 事業の概要**

- ①海外勤務に関するセミナーの開催  
海外勤務経験者や、すでに若手向けの海外研修を行っている企業の人事担当部長を講師としたセミナー
- ②他社のモデルとなる、若手対象の海外実地研修(研修期間が1週間を超えるもの)を行う企業に対し助成  
 対象者：県内中小企業(基幹4業種(機械・繊維・食品・IT))に勤務する概ね入社10年未満で海外勤務未経験の社員  
 定員：20人(1企業あたり2人まで応募可)  
 研修先：現地法人、取引先、製品の販売先、展示会等(参加企業が研修先を設定)  
 補助率等：80%(補助上限300千円/人)  
 対象経費：モデル的な海外実地研修に要する経費(交通費(渡航費等)、宿泊費、海外旅行保険料)
- ③フィードバックセミナーの開催  
研修生(選抜)による成果発表、参加企業の人事担当部長によるパネルディスカッション

施策・課題の状況					
<b>施策</b>	産業人材の総合的育成・確保				<b>評価</b>
<b>課題</b>	産業人材の総合的育成・確保				
	<b>指標</b>	海外展開延べ企業数			<b>単位</b>
					社
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>			
	平成28年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	394	294	315	352	362

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
<b>事業費</b>	予算				8,000	8,000
	決算				5,765	
<b>一般財源</b>	予算				400	400
	決算				315	
<b>事業費累計</b>			0	0	5,765	13,765

評価		
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 企業成長けん引中核人材確保事業費	<b>事業開始年度</b> H26	<b>事業終了予定年度</b> H27
	<b>根拠法令・計画等</b>	

<b>作</b>	組	織	商工労働部産業政策課			
<b>成</b>	職	氏名	専門員 高橋 雅彦			
<b>者</b>	電話番号	076 - 225 - 1508 内線 4471				

■ 事業の背景・目的  
 買い手市場(人材過多)から売り手市場(人材不足)へと転換し、全国的な人材獲得競争が激化する中、会社の将来の成長を見据えた経営企画や営業戦略を構築する人材、新製品開発による市場開拓等をけん引する人材をいち早く獲得していくことが必要である。  
 県内中小企業においても景気回復の動きを踏まえ、確かな成長軌道に乗っていくことができるよう、国の時限的な財政支援を活用し、新製品開発による市場開拓等の企業の成長をけん引する中核人材の確保を後押しする。

■ 事業の概要  
 (1) 人材の開拓  
 ① 県内人材紹介会社が、各々の有するネットワークを活用し、企業ニーズにあった人材を開拓し、県内中小企業(4業種)へ斡旋する。  
 ② 大手人材紹介会社等が行う転職希望者向けの企業等説明会(転職フェア)に業界団体が出展し、ブースを訪れた転職希望者を登録し、県内人材紹介会社を通じて県内中小企業(基幹4業種)へ斡旋する。  
 ③ 大手人材紹介会社のHPに本県のUIターン施策に関する情報を掲載。UIターン就職相談窓口(UIターンサポートステーション)を全国7箇所に設置

(2) 求人企業への支援  
 人件費助成制度の創設  
 対 象: 県内中小企業(基幹4業種(機械・繊維・食品・IT))  
 定 員: 40人程度(1企業あたり1人)  
 補助率: 80%(採用日から起算して1年間(年度跨ぎ不可)の人件費が補助対象)  
 限度額: 1人あたり最大6,000千円補助

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	産業人材の総合的育成・確保					<b>評価</b>
<b>課題</b>	産業人材の総合的育成・確保					
	<b>指標</b>	県内中小企業(基幹4業種)の人材確保人数			<b>単位</b>	人
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>				
	平成27年	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	30	-	-	-	-	35
事業費						
	(単位: 千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
<b>事業費</b>	予算				149,000	311,500
	決算				64,396	
<b>一般</b>	予算				1,400	2,435
	決算				322	
<b>事業費累計</b>			0	0	64,396	375,896
評価						
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>				
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県民との在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b>	女性のモノづくり提案力育成事業費補助金	<b>事業開始年度</b>	H26	<b>事業終了予定年度</b>	
		<b>根拠法令 ・計画等</b>			

<b>作成者</b>	<b>組織名</b>	商工労働部産業政策課			
	<b>職・氏名</b>	主任主事 山元 恵美			
	<b>電話番号</b>	076 - 225 - 1508 内線 4472			

**<事業の背景・課題>**

国内市場の縮小等による企業間競争が激化する中、これまで以上に新製品の開発や新たなマーケットの開拓等が必要であり、これまで活かしきれなかった最大の潜在力である女性の能力の活用が求められている。  
 女性社員の割合が低い県内製造業では、女性視点によるモノづくりは緒に就いたばかりであることから、女性の能力を活用した新製品開発の企画・提案ノウハウを習得する勉強会を開催し、県内製造業における女性社員の能力活用を促進する。

**「女性モノづくり提案力育成塾」の開催**

**(対象)**  
 県内企業に勤務する女性社員で、自社製品を理解し、製品開発に携わっている又は、将来携わる予定がある者

- (内容)**
- ① 製品開発等の現状確認と課題の抽出
  - ② 顧客ターゲットの設定とニーズ把握方法
  - ③ 新製品・サービス開発の具体化方法
  - ④ 先進事例の研究
  - ⑤ 新製品等提案発表会

施策・課題の状況					
<b>施策</b>	産業人材の総合的育成・確保				<b>評価</b>
<b>課題</b>	産業人材の総合的育成・確保				
	<b>指標</b>	提案力育成塾における具体の提案件数		<b>単位</b>	件
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>			
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度 平成27年度
	10	-	-	-	13

事業費						
	<b>(単位:千円)</b>	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
<b>事業費</b>	<b>予算</b>				3,000	2,300
	<b>決算</b>				2,200	
<b>一般財源</b>	<b>予算</b>				3,000	2,300
	<b>決算</b>				2,200	
<b>事業費累計</b>			0	0	2,200	4,500

評価	
<b>項目</b>	<b>評価</b> 左記の評価の理由
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	プラチナOB人材活用促進事業費	事業開始年度	H26	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組	織	商工労働部産業政策課		
成	職	氏名	主任主事 山元 恵美		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1508 内線 4472

**■事業の背景・目的**

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や、団塊世代の就業者が大量退職する中、長年のビジネス経験で培ったノウハウや高い技術力を有する企業OB(プラチナOB人材)の能力を、県内中小企業において積極的に活用していくことが求められており、就業意欲のある企業OBが県内中小企業で就業するための環境を整備する。

**■事業の概要**

<企業OB人材データベースの構築>  
 県内人材紹介会社内に求人求職相談・登録窓口を設置し、就業コーディネーターが求人企業と企業OBとをマッチング

(就業コーディネーターの役割)

- ・業界団体と連携し、県内中小企業の求人を開拓
- ・県内企業へ訪問し、既退職者及び退職予定者の情報を収集
- ・求人登録のあった企業と企業OBとをマッチング

施策・課題の状況						
施策	産業人材の総合的育成・確保					評価
課題	産業人材の総合的育成・確保					
	指標	プラチナOB人材の就業斡旋件数			単位	件
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	20	-	-	-	-	5
事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算				4,000	4,000
	決算				3,893	
一般財源	予算				4,000	4,000
	決算				3,893	
事業費累計			0	0	3,893	7,893
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県民との在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 産業人材インターンシップ促進事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作成者	組織名	商工労働部産業政策課産業人材政策室			
	職・氏名	主事 田中 宏和			
	電話番号	076 - 225 - 1508 内線 4472			

**事業の背景・目的**  
 買い手市場(人材過多)から売り手市場(人材不足)への変化により、優秀な大学生の獲得競争が激化していることに加え、就職活動開始時期が後ろ倒し・短期化され、人材確保や入社後の定着が課題となっている。学生と企業との出会いの場となる就職活動開始前のインターンシップを促進し、人材確保や入社後の定着を図る。  
 企業は、「学生ニーズを捉えたプログラムの作成が困難」、「自社の目的に合った応募学生が少ない」などの課題から受入のすそ野が広がっていない。また、学生は、「自分の目的にあったインターンシップ探しが難しい」、「HPでの情報収集だけではプログラム内容の詳細が分からない」ことが障壁となっている。一方で、参加を希望する学生は「業界・企業研究」を目的とする者が多く、一定期間の間に複数社での実習を希望する学生も多いが、このニーズに対応するプログラムがないことが課題となっている。

**事業の概要**  
 (1) インターンシップマッチング交流会の開催  
 就職・採用活動に向けたインターンシップの活用方法の紹介および、プログラム内容の詳細について企業担当者が直接説明を行い、学生がインターンシップの参加申込する場を提供することで、学生・企業の希望に合致したマッチングを促進する。  
 ■時期：5月中旬  
 ■場所：地場産業振興センター大ホール  
 ■参加企業数：80社程度

(2) モノづくり企業研究型インターンシップの開催  
 「業界・企業研究」を目的とする学生を対象に、モノづくり企業（4業種）の魅力を伝えるため、「機械の製造工程に携わる企業（部品の製造～組立など）」などのテーマを設定した複数企業での実習を行うほか、業界研究セミナーや企業担当者等とのグループワークを行う。  
 ■時期：8月～9月（うち1～2週間）  
 ■参加企業数：3～5社程度／業種×4業種

(3) インターンシップコーディネーターの配置  
 <コーディネーターの役割>  
 ①企業に対し、新たなインターンシッププログラム導入に向けたアドバイスを実施  
 ②県内外の大学の学内ガイダンスに参加し、学生に対しインターンシップの意識啓発を実施  
 ③企業・学生の希望を調整し、インターンシップをマッチング

施策・課題の状況						
施策	産業人材の総合的育成・確保				評価	
課題	産業人材の総合的育成・確保				評価	
	指標	インターンシップ参加者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	300					

事業費					
(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算				7,220
	決算				
一般	予算				7,220
財源	決算				
事業費累計		0	0	0	7,220

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		
今後の方向性(県民ニーズ、緊急性、県関与の在り方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		